

重松清『タオル』テスト対策練習問題と過去問まとめ

年	組	番	名前
---	---	---	----

問1 次の太字の漢字の読みがなを、ひらがなで答えなさい。

- ① ボールを(蹴)って
- ② 魚市場に魚を(卸)し
- ③ 漁師を(継)ぐ
- ④ (雰)囲気があんまり
- ⑤ (連)絡をもらって
- ⑥ (愚)息も一丁前になり
- ⑦ ろれつの(怪)しい声で

問2 次の太字の漢字の特別な読み方を、ひらがなで答えなさい。

- ① (焼)香を終えた
- ② 居(心)地悪そうだった



- ③ (叔母)さんに叱られた
- ④ (二十歳)そこそこに

問3 次のカタカナを漢字になおしなさい。

- ① ご(シュウショウ)さまです
- ② (サイダン)の前に座る
- ③ (シンセキ)に挨拶する
- ④ 雑誌で(ショウカイ)した
- ⑤ (メイド)に送ってやらんといけん

問4 次のカタカナを漢字になおしなさい。

- ① ネクタイを(シ)めている
- ② 町内の民宿に(ト)まる
- ③ みちしお(ソウ)まで案内する
- ④ 古びた漁船が二十(セキ)並ぶ



- ⑤ ぶ厚く膨らんだ(フウトウ)

問5 次のカタカナを漢字になおしなさい。

- ① イカの小(バチ)が並ぶ
- ② 春が(シュン)の小さなイカ
- ③ (スミノ)で食べる
- ④ お(フロ)が嫌いじゃった
- ⑤ (カンオケ)をのぞいてみたら

問6 「広間にいる人たちは皆、けげんそうな顔で」とありますが、「けげんそう」とはどのような様子ですか。次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア:相手の態度にイライラして腹を立てている様子
- イ:事情がわからず不思議に思っている様子
- ウ:見知らぬ人が来ておびえている様子
- エ:退屈で眠たそうな様子



問7 「ビールとジュースのコップを軽くぶつけてケンパイする」とありますが、ここで「ケンパイ」がカタカナで書かれているのはなぜですか。その理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

ア:人が死んだときにする献杯とは違うと思っているから

イ:少年は「ケンパイ」という言葉の意味や漢字がまだよくわかっておらず、聞こえた音のまま受け取っているから

ウ:ビールとジュースは献杯にはふさわしくないと思ったから

エ:お葬式の暗い雰囲気吹き飛ばすために、明るく言ったから

問8 この物語では、地の文で「おじいちゃん」「お父さん」ではなく、「祖父」「父」と書かれています。これにはどのような効果がありますか。最も適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

ア:少年の気持ちを強く表す。

イ:人物の関係を、少し距離を置いて客観的に示す。

ウ:昔の時代の話であることを表す。

エ:父と祖父の仲の悪さを表す。

問9 「ほの白いタオル」とあるのは、どのような様子を表していますか。最も適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

ア:古くなって色が変わっていた様子

イ:暗がりの中で、タオルがぼんやり白く見えた様子

ウ:涙で白くかすんで見えた様子

エ:遠くから光って見えた様子

問10 「悲しいかどうかははっきりしない」とありますが、物語の序盤で少年がこのように感じていた一番の理由は何ですか。本文中の言葉を使って、「～から。」と続くように書きなさい。



問11 シライさんが「二人まとめて厄払いされちゃったな」と言ったとき、少年が「それがちょっとうれしくて」と感じたのはなぜですか。簡潔に書きなさい。

問12 シライさんが「クスッと笑いかけて、ああそうか、と頬をすぼめた」とき、どのような気持ちが表れていると考えられますか。最も適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

ア: 昔の写真がおかしくてたまらない気持ち

イ: 祖父のことを思い出し、もう会えない寂しさを感じた気持ち

ウ: 少年にうまく説明できず困った気持ち

エ: 父の若い頃の写真を自慢したい気持ち

問13 「おとといまではこの家にいた人のことを、もうみんなは思い出話にしてしゃべっている。」とありますが、この「この家にいた人」とは誰のことですか。漢字二文字で答えなさい。

問14 少年が「急に寂しくなった」のはなぜですか。本文の内容にふれて、三十五字以内で書きなさい。

問15 少年は、おじいちゃんのタオルをどのようにして額に巻きましたか。「いつも祖父がそうしていたように」という部分に注目して、本文の言葉を使って書きなさい。



問16 少年の目から涙があふれ出たのは、どのようなきっかけが重なったからですか。本文の内容にふれて、二つ書きなさい。

問17 この作品の題名が「タオル」であるのはなぜですか。最も適切なものを次の中から一つ選び、○で囲みなさい。

- ア:祖父が仕事で毎日使っていた、祖父らしさを表す大切なものだから。
- イ:少年が将来漁師になる決意をした場面に出てくるから。
- ウ:大人たちが祖父の死を忘れないための目印だから。
- エ:家族の貧しさを表す道具だから。

問18 この物語を通した「少年」の心情の変化として、最も適切な順番になるように並べ替えなさい。

- ア:大人たちの思い出話を聞き、祖父がもういないことを実感して寂しくなる。
- イ:大人から邪魔者扱いされ、自分の居場所がなく、悲しいかもはっきりしない。
- ウ:タオルを巻いてにおいを感じ、悲しみがあふれ出して涙を流す。
- エ:祖父の昔話を聞き、写真を見たことで、もう話せない現実に気づき悲しさを感じる。



重松清『タオル』テスト対策練習問題と過去問まとめ (解答)

問1 ①け ②おろ ③つ ④ふんいき ⑤れんらく ⑥ぐそく ⑦あや

【解説】「雰囲気」は「ふんいき」と間違えやすいので注意しよう。「愚息」は、自分の息子のことをへりくだって言う言葉だよ。

問2 ①しょうこう ②ここち ③おば ④はたち

【解説】どれも特別な読み方をする言葉だよ。テストでよく狙われるので、しっかり覚えておこう。

問3 ①愁傷 ②祭壇 ③親戚 ④紹介 ⑤冥土

【解説】「愁傷」の「愁」は「秋」の下に「心」と書くよ。「冥土」は死んだ人が行く世界、つまりあの世のことだね。

問4 ①締 ②泊 ③荘 ④隻 ⑤封筒

【解説】「隻」は船を数えるときの単位だよ。「封筒」の「筒」は竹かんむりなので注意しよう。

問5 ①鉢 ②旬 ③酢味噌 ④風呂 ⑤棺桶

【解説】「旬」は食べ物が一番おいしい時期のこと。「酢味噌」は「酢」の字に注意しよう。

問6 イ

【解説】「けげんそう」は、事情がわからず不思議に思っている様子だよ。広間の人たちは、なぜ東京の記者がここにいるのだろう、と不思議に思っているんだね。



問7 イ

【解説】直前に「ケンパイ。また知らない言葉が出てきた。」とあるね。少年がまだ言葉の意味を十分に理解できず、聞こえた音のまま受け取っている子どもらしさを表しているよ。

問8 イ

【解説】「おじいちゃん」「お父さん」と書くと少年の気持ちに近くなるけれど、「祖父」「父」と書くことで、人物の関係を少し距離を置いて客観的に示しているんだね。

問9 イ

【解説】「ほのか」には「かすかに」という意味があるよ。暗がりの中で、タオルがぼんやり白く見えている様子を表しているね。

問10 (例) 自分の居場所を見つけられず、ゆっくり悲しむことができないから。

【解説】少年は、頭では祖父が死んだとわかっているけれど、大人たちから邪魔者のように扱われ、落ち着いて悲しむことができないんだね。

問11 (例) 自分もシライさんも邪魔者のようにされていると感じ、仲間がいるように思えたから。

【解説】本文には「なんとなくシライさんが『俺たちは同じだな。』と言ってるんじゃないかと感じて」とあるね。少年は、自分だけではないと感じて少しうれしくなったんだ。

問12 イ

【解説】写真を見てクスッと笑ったあと、もう祖父と話すことはできないのだという現実に気づき、寂しさを感じている場面だね。

問13 祖父

【解説】「おとといまではこの家にいた人」は、亡くなったおじいちゃん、つまり祖父のことだよ。



問14 (例) 大人たちが祖父のことを思い出話として語り、もういないことを強く実感したから。

【解説】祖父のことが「思い出話」になっていることで、少年は祖父がもうこの家にはいないのだと実感したんだね。

問15 タオルをねじって細くして、額にきつく巻き付けた。

【解説】「少年はタオルをねじって細くした。」「額にきつく巻き付けた。」という描写からまとめよう。

問16 (例) タオルから祖父のにおいを感じたこと。父が涙ぐむ姿を見て、フラッシュのまぶしさを感じたこと。

【解説】祖父のにおいと、父の涙、フラッシュの光がきっかけになり、少年の中にたまっていた悲しみが一気にあふれ出したんだね。

問17 ア

【解説】シライさんが「タオルがないとおじいちゃんじゃないから」と言ったように、タオルは祖父の存在そのものを象徴する大切なものとして描かれているよ。

問18 イ → エ → ア → ウ

【解説】少年は最初、自分の居場所がなく悲しいかどうかもわからない状態だった。その後、祖父の写真や昔話から「もう話せない」ことを感じ、大人たちの思い出話で祖父の不在を実感し、最後にタオルを巻いて涙を流すんだね。

